

保護者の皆さんへ

お子さんの

学 力 向 上

学びを
支える
スクラム

のために
大切なこと

これからの社会が、どんなに変化して予測困難になっても、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現してほしい。そして、明るい未来を、共に創っていきたい。

そうした願いが込められている学習指導要領の趣旨を実現するために、東京都教育委員会では、小学校第4学年から中学校第3学年までの児童・生徒を対象に「児童・生徒の学力向上を図るための調査」を実施し、子供たちの学習意欲や学習の進め方など、学びに向かう力等に関する意識を把握し、分析しています。

各学校では、この調査結果を活用し、子供たちの学習に関する意識の状況を明らかにし、日々授業改善に取り組んでいます。

この「お子さんの学力向上のために大切なこと」では、調査結果を踏まえ、お子さんの学習や生活について御家庭で取り組んでいただきたいことを紹介しています。ぜひ御活用いただき、お子さんの学びへのより一層の御支援をお願いいたします。

1 調査結果(個人票)の見方

令和4年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」では、調査に回答した小学校第4学年から中学校第3学年の児童・生徒の皆さんに、次のような個人票を返却しました。昨年度の結果と比べることで、学習の進め方の変化を確認することもできます。

東京都教育委員会
令和4年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」個人票

1組1番 □□◇◇

調査結果をもとに、どのように学習を進めているかを振り返りましょう。そして、これらから、どのように学習を進めるとよいかについて、友達や先生と一緒に考えてみましょう。

1 授業の内容はどのくらい分かりますか		2 教科の学習はどのくらい得意ですか	
教科	あなたの回答	教科	あなたの回答
国語	どちらかといえば分かる	国語	どちらかといえば得意
社会	どちらかといえば分かる	社会	どちらかといえば得意
算数	どちらかといえば分からない	算数	どちらかといえば得意ではない
理科	よく分かる	理科	得意

3 学習する理由は何ですか

学習する理由	あなたの回答	振り返ってみましょう
分かることやできることが楽しいから	●●●●	
しっかり考えられるようになりたいから	●●●●	
授業の仕事や生活に役立つから	●●●●	
友達や先生と学習するのが楽しいから	●●●●	
学校の学習で人に負けたくないから	●●●●	
先生や家の人にほめられたり、ごほうびをもらえたりするから	●●●●	

4 どのように学習を進めていますか(教科全体)

あなたの回答

左の図は、下の四つの学習の進め方について、あなたの回答を数(1.0~4.0)で表したものです。数が4.0に近いほど、ふだん、あなたが学習するときに、下の説明のような学習の進め方を行っていると考えられます。

学習の進め方の説明

- ねばり強く進める**: 授業にできるようなるまで、くり返し練習するなど、あきらめずに、ねばり強く取り組もうとする学習の進め方です。
- 工夫しながら進める**: 自分の学習を振り返り、どのようにすればもっとうまくできるかなどを考えて工夫しようとする学習の進め方です。
- 対話しながら進める**: 他の人に自分の考えを説明したり、分からないときに質問や相談をしたりしながら、自分の考えを広げ深めようとする学習の進め方です。
- 理解しながら進める**: 学習したことをただ覚えるだけでなく、考えや、言葉の意味、理由などを考えて、より深く理解しようとする学習の進め方です。

振り返ってみましょう

「1 授業の内容はどのくらい分かりますか」と「2 教科の学習はどのくらい得意ですか」

お子さんは、授業の内容について、どのくらい理解していると考えているでしょうか。また、各教科の学習について、どのくらい得意であると感じているのでしょうか。お子さん自身による自己評価の結果から、自分の学力や学習状況をどのように捉えているかについて確認することができます。

「3 学習する理由は何ですか」

自分が学習する理由について、お子さんがどのように考えているのかを確認することができます。

「4 どのように学習を進めていますか(教科全体)」

学習の進め方には、どのような特徴があるのでしょうか。「ねばり強く進める」、「工夫しながら進める」、「対話しながら進める」、「理解しながら進める」という四つの点から、その特徴を捉えることができます。

5 どのように学習を進めていますか(国語)

学習の進め方	あなたの回答
1字を何回もくり返し書いて覚えていく。	●●●●
漢字の部首の意味を考えながら覚えていく。	●●●●
似た意味の漢字の読み、使われている場面などを確かめながら覚えていく。	●●●●
テストやドリルでまちがえたときは、まちがえた漢字に練習している。	●●●●
テストでまちがえたときは、どこをまちがえたのかを考えていく。	●●●●
発表や話し合いのときは、話す内容や順序を考えていく。	●●●●
聞くときは、メモを取って整理するようになっている。	●●●●
自分が書いた文章を読み直し、分かりやすい表現になっているようにしている。	●●●●
他の人が書いた文章のよい点を取り入れて書くようにしている。	●●●●
書くときに、大切な部分や疑問に思った部分に線を引いたりして覚えている。	●●●●
文章を読んで理解したことや考えたことなどを他の人に説明している。	●●●●

6 どのように学習を進めていますか(算数)

学習の進め方	あなたの回答
答えだけでなく、途中の計算も書いている。	●●●●
暗算に計算することができないかを考えてから計算している。	●●●●
まちがえた計算問題は、どこでまちがえたのかを考えている。	●●●●
テストやドリルでまちがえたときは、似た問題を選んで、特に練習している。	●●●●
算数で学習する言葉や公式は、見ないでも書けるようにしている。	●●●●
算数で学習する言葉や公式の意味を理解しようとしている。	●●●●
算数で学習した言葉を使って自分の考え方を説明している。	●●●●
前に同じような問題をやったことがあるか、今まで学習した問題とどこがちがうのかを考えている。	●●●●
分かっていることと求めることを考えて問題に取り組んでいる。	●●●●
文章問題 問題文の内容を図や表、グラフを考えている。	●●●●
式や答えだけでなく、途中の計算も書いている。	●●●●
まちがえた文章問題は、どこでまちがえたのかを考えている。	●●●●

7 学校以外でどのように学習を進めていますか

学校以外での学習の進め方	あなたの回答
自分で計画を立てて学習している。	●●●●
教科書を読むだけでなく、授業でこれから学習することの関連をもつようにしている。	●●●●
教科書やノートを読み返すなどして、授業で学習したことを整理している。	●●●●
教科書やドリルの問題に取り組むなどして、学習したことを確実にできるようにしている。	●●●●
授業で学習した内容について、疑問に思ったことや興味を持ったことを調べるようにしている。	●●●●

学習時間(月曜日から金曜日まで)

あなたの回答: 毎日30分以上、1時間以上 15%

毎日30分以上、1時間未満 33%

毎日15分以上、30分未満 25%

毎日15分未満 27%

※調査対象は、小学校第4学年から第6学年までの児童・生徒

振り返ってみましょう

「5 どのように学習を進めていますか(国語)」

「6 どのように学習を進めていますか(算数)」

漢字の学習は、どのように取り組んでいるのでしょうか。算数の用語や公式の学習は、いかがでしょうか。調査結果と、普段取り組んでいる小テストや単元テスト、学力調査等の結果とを比べながら、「どのような学習の進め方が、成果や課題につながっているのか」について、お子さんと一緒に考えることができます。

「7 学校以外でどのように学習を進めていますか」

学校以外で、どのように学習に取り組んでいるのでしょうか。自分で計画を立てて学習しているのでしょうか。調査項目に示された内容は、家庭学習の改善を図るための参考にすることができます。

※この個人票は、小学校第4学年から小学校第6学年までの内容を示しています。

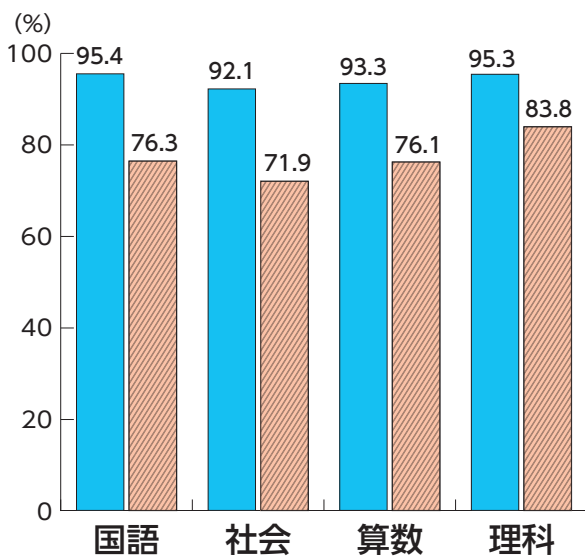
2 学習の進め方と授業の理解の程度との関係

令和4年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」 児童・生徒調査の結果から ※小学校第4学年から第6学年までの児童の回答結果をまとめたもの

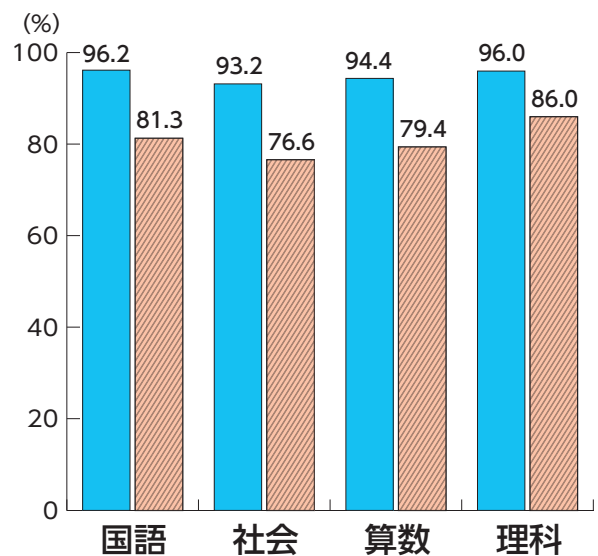
次のように学習を進めている児童は、授業の内容を分かると感じる傾向がみられます。

- ◆ 大切な言葉や公式などは、意味を理解して覚えるようにしている。
- ◆ 問題の答え合わせをするときに、答えが合っているかどうかだけでなく、その問題の考え方も確かめている。

大切な言葉や公式などは、意味を理解して覚えるようにしていることと授業の理解の程度との関係



答えだけでなく、考え方も確かめながら学習していることと授業の理解の程度との関係



■ その学習の進め方をしている児童のうち、授業を分かると感じている児童の割合
■ その学習の進め方をしていない児童のうち、授業を分かると感じている児童の割合

※ その学習の進め方をしている児童……それぞれの学習の進め方について、「当てはまる」又は「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童
※ その学習の進め方をしていない児童……それぞれの学習の進め方について、「当てはまらない」又は「どちらかといえば当てはまらない」と回答した児童
※ 授業を分かると感じている児童……各教科の授業の内容について、「よく分かる」又は「どちらかといえば分かる」と回答した児童

家庭で学習するときも、大切な言葉や公式の意味を理解して覚えたり、テストで間違えた問題を振り返って、その問題の考え方などを確かめ、理解したりすることが重要です。昨年度(令和3年度)の調査結果でも、同様の傾向がみられました。お子さんの学習の様子を見て、自分で効果的に学習を進められるように、声を掛けてみましょう。



次のページからは、お子さんが、効果的な学習の進め方を身に付けられるように、家庭で取り組むことができる支援の例を紹介します。

〔調査の結果〕

ア「ろくが」の正答率	
東京都(公立)	全国(公立)
67.5%	65.2%
イ「はんせい」の正答率	
東京都(公立)	全国(公立)
61.9%	58.7%
ウ「したしむ」の正答率	
東京都(公立)	全国(公立)
67.8%	67.1%

これらの調査結果から、漢字を文や文章の中で使うことに課題があることが分かりました。

漢字の学習において、**どのよう**に学習を進めることが大切なのでしょうか。

〔令和4年度全国学力・学習状況調査〕小学校国語 3 三の問題

運動が苦手な人もしたしむことができるように、ルールや道具をくふうした、おに遊びやボールゲームを各学級にしようかいいたいです。

正答：「親(しむ)」「誤答例：「下(しむ)」など

そして、当番の日に水やりをするだけで、南さんのように、みんなのために新たな活動を提案できなかったことをはんせいしました。

正答：「反省」「誤答例：「反成」「反生」など

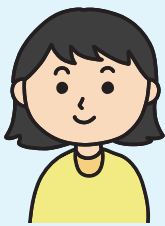
南さんは、みんなにしようし用具の正しい使い方をほしいという思いをもち、正しく使うことができている学級の様子をろくがして、各学級にしようかいいたいそうです。

正答：「録画」「誤答例：「録画」など

島谷さんは、習っている漢字がひらがなになっていた。次の部 **ア**、**イ**、**ウ**を漢字に書き直すことにしました。

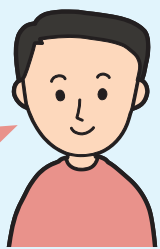
部 **ア**、**イ**、**ウ**を漢字でいねいに書きましよう。

テストやドリルで間違えたときには間違えた漢字を学習し直し、学習内容を定着できるようにすることが大切です。その際、漢字辞典等を活用するなどして、漢字の部首を考えたり、漢字の意味や使われている熟語などを確かめたりすることができるように、声を掛けてみましょう。



漢字のテストで、「録」という漢字を間違って「録」と書いてしまったよ。

「録」という漢字と「録」という漢字は、形が似ているから間違いやすいね。保護会合のとき、担任の先生が、「漢字を学習するときは、その漢字の意味を調べたり、その漢字が使われた言葉を集めたりして覚えることも大切です。」とおっしゃっていたよ。



間違えた「録」という漢字を、漢字辞典で調べてみるね。「ロク」と読めるから、「音訓さくいん」で調べよう。

【漢字辞典の記載例】

録 金 - 8 画

録 16 画 4 年 音 ロク

意味 ①書きしるす。書きしるしたもの。②音声や形を、うつしとる。

【録音】ろくおん CDやハードディスクなどに、音や声などを記録すること。

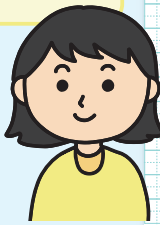
【例】インタビューを録音する。

【録画】ろくが 映像をDVDやハードディスクなどに、記録すること。

【例】テレビドラマを録画する。

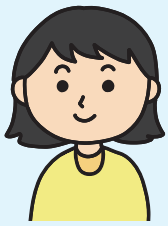
熟語 記録・語録・採録・住所録・収録・新記録・図録・音録・音録・備忘録・付録・目録

録音、録画、記録、住所録…。「録」という漢字がつく言葉は、「何かを書きしるす。」とか「何かをうつしとる。」というような意味のものが多いことが分かったよ。調べたことをノートにまとめてみよう。



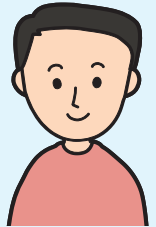
【フートの例】

録	音読み	ロク	画数	十六画
録	訓読み	ロク	部首	かねへん
意味	①書きしるす。書きしるしたもの。②音声や形を、うつしとる。			
集めた漢字	記録、語録、採録、住所録、収録、新記録、音録、音録、備忘録、付録、目録			



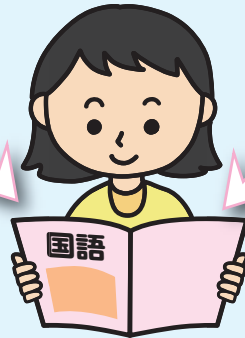
ええと…、学校で勉強したんだけど…。

漢字の読み方が分かるときは、「音訓さくいん」で調べられるね。読み方が分からないときも、漢字辞典で調べることができるの？



学校で勉強したのなら、教科書に漢字辞典の使い方がのっているんじゃない？確かめてみたら？

●「総画さくいん」
漢字の読み方も部首も分からないときは、「総画さくいん」で調べましょう。
「総画さくいん」では、総画数の少ない順に漢字がならんでいて、どの漢字がどのページに出ているのかが分かるようになっています。

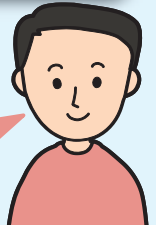


●「部首さくいん」
漢字の部首が分かるときは、「部首さくいん」で調べましょう。
「部首さくいん」では、部首が画数の少ない順にならんでいて、その部首のページを開くと、同じ部首の漢字が画数順にならんでいます。

漢字辞典の「さくいん」の使い方が分かると、どんな漢字も調べられるね。漢字辞典を使って漢字のことをくわしく調べると、その漢字のことがよく分かるようになったよ。

漢字の部首の意味を考えたり、その漢字が使われている熟語を確かめたりすると、しっかりと覚えられそうだな。

手紙を書くときなど、ふだんから習った漢字を使うといいね。



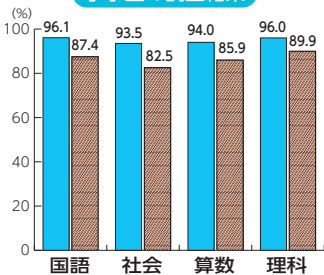
漢字の学習では、同じ漢字を繰り返し書いて覚えることにとどまらず、漢字の部首の意味を考えたり、使われている熟語などを確かめたりしながら覚えることも大切です。

また、漢字を正しく読んだり書いたりするとともに、語彙を広げるためには、辞書を利用して調べる習慣を付けることも大切です。御家庭で、分からない言葉などがあつたときは、「自分で辞書や事典を使って調べてごらん。」と声を掛けてみましょう。

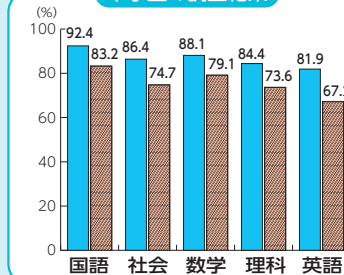
コラム 分からない言葉があつたときは自分で調べる習慣を付けることが大切

学習していて分からない言葉があれば、すぐに調べるようにしていることと授業の理解の程度との関係

小学生の調査結果



中学生の調査結果



■ その学習の進め方をしている児童・生徒のうち、授業を分かると感じている児童・生徒の割合
■ その学習の進め方をしていない児童・生徒のうち、授業を分かると感じている児童・生徒の割合
〔令和4年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」東京都全体の調査結果より〕

小学校では、主に3・4年生において、国語辞典や漢字辞典の使い方について学習します。また、必要なときにはいつでも辞書が近くにあり使えるように様々な工夫をしています。事典の利用については、目的に応じていろいろな種類の事典を選んだり、目次や索引を利用して情報を得たりできるように指導しています。

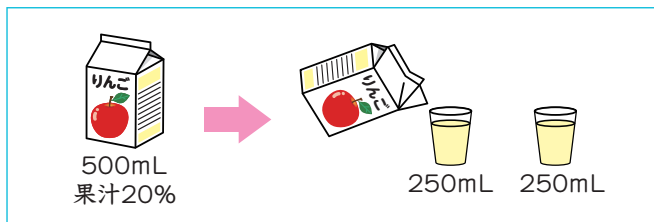


都の学力調査の結果から、「学習していて分からない言葉があれば、すぐに調べるようにしている。」という学習の進め方を行っている児童・生徒は、各教科の授業を分かると感じる傾向がみられることが分かりました。

小学校段階から、分からない言葉や疑問に思った言葉があつたときに、辞書や事典、教科書などを使って調べる習慣を付けることが大切です。

「令和4年度全国学力・学習状況調査」小学校算数 [2] (3)の問題

りんごの果汁が20%ふくまれている飲み物が500mLあります。
この飲み物を2人で等しく分けると、1人分は250mLになります。



250mLの飲み物にふくまれている果汁の割合について、次のようにまとめます。

250mLは、500mLの $\frac{1}{2}$ の量です。

このとき、

上の㉗にあてはまる文を、下の1から3までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合も $\frac{1}{2}$ になります。
- 2 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合は2倍になります。
- 3 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になっても、果汁の割合は変わりません。

〔調査の結果〕

正答「3」を選択している児童の割合

東京都(公立)

29.1%

全国(公立)

21.4%

誤答「1」を選択している児童の割合

東京都(公立)

62.5%

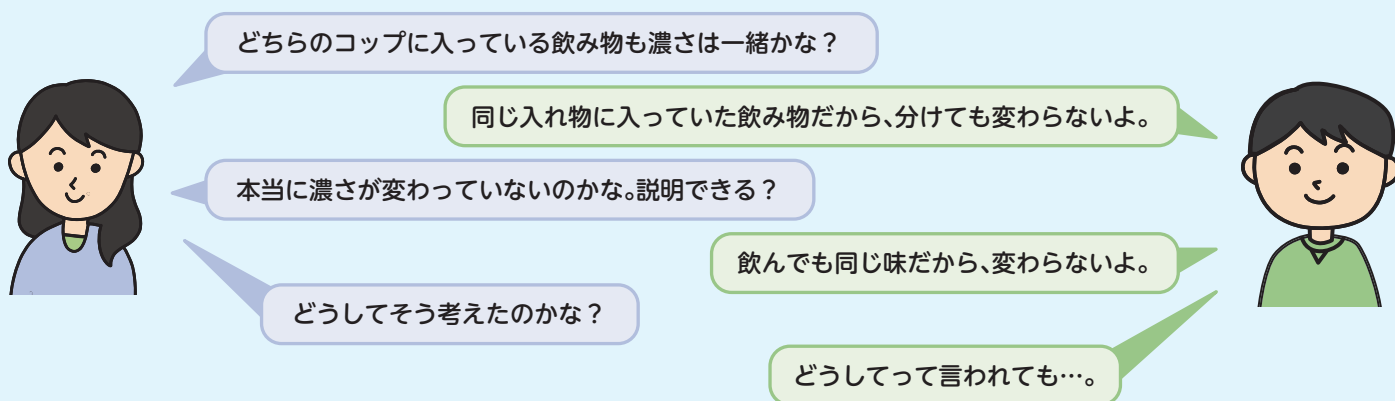
全国(公立)

67.9%

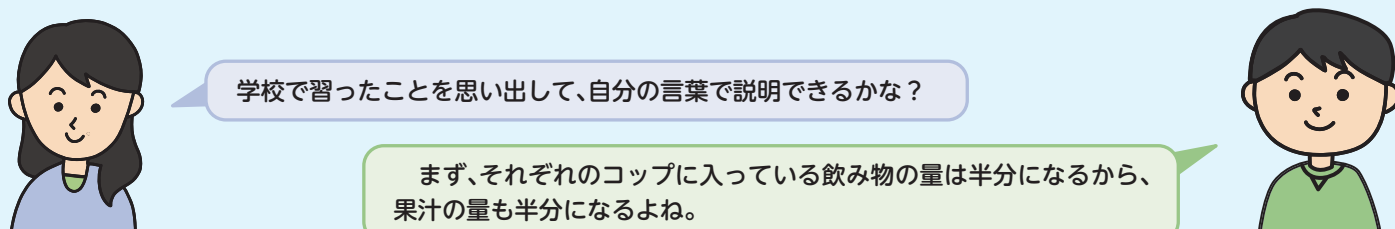
「1」を選んだ児童は、果汁が20%含まれている飲み物を二人で等しく分けたとき、飲み物の量が半分になると、同様に果汁の割合も半分になると誤って捉えていると考えられます。日常の具体的な場面に対応させながら、割合について理解できるようにすることが大切です。

そのためには、**ふだんからどのようなことを意識することが大切なのでしょうか。**

お子さんが、日常の具体的な場面と、学校の授業等を対応させて考えることができるよう、声を掛けてみましょう。



自分の考えを説明できるように工夫して声を掛けてみましょう。





そうだね。例えば、果汁20%の飲み物500mLを半分にしたときは、どう考えられる？

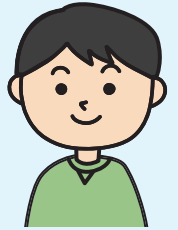
それぞれのコップに入っている飲み物の量は、250mLになるね。果汁の量は…。

果汁20%の飲み物500mLには、どのくらいの果汁が含まれているかな？

$500 \times 0.2 = 100$ で100mL入っているよ。

そうだね。そうしたら、果汁20%の飲み物500mLを半分にしたときは、果汁の量はどうなるかな？

それぞれのコップに入っている飲み物の量は250mLで、果汁の量は半分になるから50mLになるね。飲み物の量に対する果汁の量の割合を求めると、どちらも $50 \div 250 = 0.2$ で、20%になる。ということは、分ける前と後で割合は変わらないから、濃さも変わらないね。



学校で習った言葉で説明できたときには、認めるようにしましょう。また、その言葉の意味を理解していない様子が見られるときは、教科書の索引などで調べるように声を掛けてみましょう。

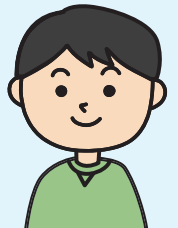


「濃さ」というのは、学校で習った「割合」という言葉を使って説明できるんだね。「割合」という言葉の意味は分かるかな？

言葉で説明することは難しいな。

教科書の後ろに「さくいん」があるのは知っている？大切な言葉の意味は、そこから調べることができるようになっているよ。

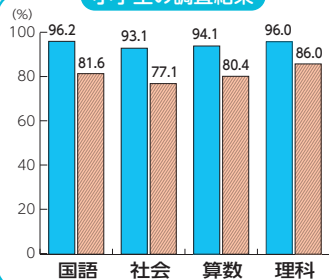
本当だ。今度から、分からない言葉があったら、教科書の「さくいん」で調べてみるよ。



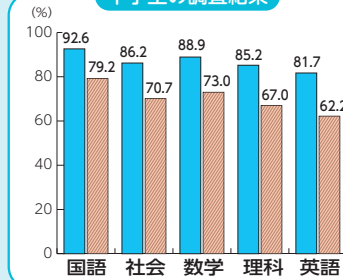
コラム どうしてそうなるのかという理由を考えながら学習することが大切

どうしてそうなるのかという理由を考えながら学習していることと授業の理解の程度との関係

小学生の調査結果



中学生の調査結果



■ その学習の進め方をしている児童・生徒のうち、授業を分かると感じている児童・生徒の割合
■ その学習の進め方をしていない児童・生徒のうち、授業を分かると感じている児童・生徒の割合
〔令和4年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」東京都全体の調査結果より〕

小学校では、授業で学習した言葉を使って自分の考え方を説明できるように指導しています。他の人に説明する際、算数で学習した表現を使うことによって、自分の考えをより分かりやすく説明できる、と実感できるよう工夫しています。



都の学力調査の結果から、「どうしてそうなるのかという理由を考えながら学習している。」という学習の進め方を行っている児童・生徒は、各教科の授業を分かると感じる傾向がみられることが分かりました。

また、どうしてそうなるのかという理由を説明することは、頭の中が整理され、そのことが本当に理解できているかを確認することにつながります。日頃から自分の考えを誰かに説明する機会を作るようにすることが大切です。

5 お子さんとの会話を充実させるポイント

伝えたい内容を言葉で表現できるようにしたいとき

こんなふう
に似ているもの
同士をまとめて、
グループに分けて
みたんだけど…。



それは、「分類」
だね。分類して、
いろいろなものを
整理すると、よく
分かるね。

お子さんの伝えようとする気持ちを大切にしながら、話の内容を要約したり、別の表現に言い換えたりするなどして、お子さんが自分の伝えたい内容にふさわしい表現を考えられるようにすることが大切です。

お子さんが伝えようとしていることを受け止め、要約したり、言い換えたりするなど、表現のヒントを示しましょう。

難しい課題を解決できるようにしたいとき

保護者の方が、すぐに解決方法を示すのではなく、解決への見通しをもたせたり、うまくいかない原因を振り返らせたりするなどして、お子さんが自分で解決できるようにすることが大切です。

お子さんの様子を見ながら、解決の見通しをもたせたり、それまでの取組を振り返らせたりしましょう。

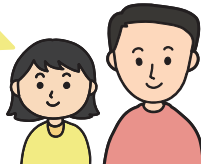
漢字のテストで間違えちゃった。何度も漢字を書いて練習したのに…。



次の漢字のテストに向けて、どのように漢字の学習をしたらいいかな？

筋道立てて自分の考えを説明できるようにしたいとき

なるほど。三角形の面積を求める公式は、「底辺×高さ÷2」になるのか。



どうしてそうなるのかを、もう一度、自分の言葉で説明してごらん。

保護者の方が納得できたとしても、他の人も同じように納得できるとは限りません。当たり前と思えることでも、理由や根拠を確かめるなどして、お子さんが自分の考えを筋道立てて説明できるようにすることが大切です。

お子さんの考えたことについて、そのように考えた理由や根拠を確かめましょう。

- お子さんの顔を見て、会話をしましょう。
- うなずいたり、受け止めの言葉を発したりするなど、積極的に聞いている姿勢を示しましょう。
- お子さんの話を、最初から否定しないで聞きましょう。
- お子さんの話を、最後までささげずに聞きましょう。

お子さんが、保護者の方に安心して自分の考えを伝えられるように、左のようなことにも気を付けてみましょう。



令和5年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」のお知らせ

調査実施日 令和5年5月から6月までの間
(詳しくは、後日、学校からお知らせがあります。)

調査対象 都内全公立小学校 第4学年～第6学年
都内全公立中学校 第1学年～第3学年
都内全公立義務教育学校 第4学年～第9学年
都内全公立中等教育学校 第1学年～第3学年

調査内容 児童・生徒の学習意欲や学校・家庭での学習の進め方など、学びに向かう力等に関する意識を調査

調査方法 児童・生徒用のパソコンやタブレット端末を用い、ウェブシステムを通じて回答

右の二次元コードから、「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果を閲覧することができます。

